中山間地域振興対策特別委員会会議録

平成20年３月17日

場　所　第３委員会室

平成20年３月17日（月曜日）

午前10時０分開会

会議に付した案件

〇協議事項

1．委員会報告書について

2．委員長報告（案）について

3．その他

出席委員（14人）

委員長	河野哲也
副委員長	松田勝則
委員	緒嶋雅晃
委員	坂元裕一
委員	野辺修光
委員	濵砂守
委員	中野一則
委員	中野廣明
委員	横田照夫
委員	黒木正一
委員	太田清海
委員	髙橋透
委員	西村賢
委員	田口雄二

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

事務局職員出席者

政策調査課副主幹（特別委員会担当）	河野龍彦
議事課主査	隈元淳二

〇河野哲也委員長　おはようございます。ただ今から、中山間地域振興対策特別委員会を開会いたします。まず、本日の委員会の日程についてであります。お手元に配付の日程案のとおり、取り進めたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

〇河野哲也委員長　では、そのような形で進めさせていただきます。

それでは、委員協議に入ります。委員会報告書につきましては、既に、皆様の御了解をいただいているところでありますが、あさって、３月１９日の定例会最終日に、議場にて、４つの特別委員会報告書を合冊して配付させていただきますので、ご了承いただきたいと思います。

次に、同じく、あさって、定例会最終日の本会議で行います委員長報告案についてであります。

お手元に配付の委員長報告案を御覧ください。報告書の方には、皆様の御意見をできる限り盛り込ませていただきましたが、委員長報告案につきましては、時間の制約がありますことから、要点を絞った形で、まとめさせていただいております。

じゃあ今から、それぞれ御覧いただいて御意見等がございましたら、お願いいたします。

〇横田委員　銀鏡地区のことですけど、山村留学をやっていますよね。何で山村留学までして学校を存続させないといけないのか、やっぱり、それなりの理由があったと思うのですけれど、そこら辺りを入れなくていいのかなと思うのですけれど。

〇河野哲也委員長　関連はありませんでしょうか。

○坂元委員　報告書には入っていましたよね。

○河野哲也委員長　はい。報告書には入れています。

○横田委員　じゃあ、時間的なこともあるから。

○河野哲也委員長　よろしいですかね。じゃあ、他は。

○中野廣明委員　総務政策常任委員会で「室」ができる関連であったんですよ。過疎対策も２兆円を超えてうんぬんとありますが、今まで、反省点というか、そういうのを含めてしっかりやらねば、また、同じようなことをしても一緒だと思うんですよね。なぜ２兆円も突っ込んで過疎になったかというのをしっかりやらないと、それをちょっと・・・。

それと、もう一つ、国富も、今度２校廃校になるんですよ。結局、補助金等が入っていますと、廃校して、すぐ民間等に貸し出しますよとか、そういうのも難しいんです。もう古い学校はいいけどですよ。制度的なものを含めて、しっかり対応するようにですよね。ぜひ、そこら辺を入れ込んで・・・。

ブルー・ツーリズムとかいっても、極端な言い方をすると、もう何十年も前からやっているんですよ。結果的には、何にもなっていないのではないかという、そういうことを含めて、現実的な問題に照らし合わせた対策をとらんと。一方では、モデル地域をつくるとか総務政策の方で言っていたけどですよ。そういうことで、ぜひ、現実的な話に戻した対応を。

○河野哲也委員長　じゃあ、今いただきました御意見につきましては、時間の関係上、正副委員長一任ということで、それと、来年度の課題という部分も含まれていると思いますので、そこら辺で御一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○河野哲也委員長　ありがとうございます。では、そのように決定いたします。次に、その他でありますが、何かございませんか。

なければ、本日の委員会は、これで終了したいと思います。最後の委員会となりますので、私と副委員長の方から、一言ずつ御挨拶を申し上げたいと思います。

当委員会、皆様の御協力で調査、意見交換と本当に充実した一年であったと思います。報告書の最後にあるように、「中山間地域は生命を育む地域である」という観点で各委員が活発な御意見、問題提起、提案をしていただきました。しっかり受け止めて、来年度に向かっても、そこに住まれる方の幸福という一点でこの調査が活かしていけるよに、今後とも、しっかりと取り組んでいきたいと思います。本当に一年間、ありがとうございました。

じゃあ、続きまして、副委員長から一言お願いします。

○松田副委員長　皆様方、一年間大変お世話になりました。一期目でありまして、比較はできないんですけれども、大変充実した熱い委員会であったと思っています。

言葉は、こんなに思い意味を持つのかと改めて知りました。いわゆる「限界集落」という言葉であります。私は、何気なく使っておりましたが、公的な言葉ではなくて「過疎地」に代わるこの「限界集落」という言葉が、その限界集落と言われる対象の集落に住んでいらっしゃる方々に、どれだけマイナスのイメージをもたらしているかということも、今回の視察で十分に知ることができました。今、「高齢過疎集落」みたいな新しい言葉を国もつくろうとしているみたい

ですけれど、いかんせん、私たちの命を育んできてくれたこの中山間地、これをなくしてはいけない、そういう思いで始まったこの委員会、漠然とした形ではなくて、いかに都市部との格差をなくすかということに焦点を当てて、皆様方と一緒に議論をしてきましたが、大変に大きな前進をしたのではないかと思います。これを、この一年だけではなしに、今後も継続いたしまして、宮崎県が今までつぎ込んできた２兆円という過疎地に対する資金を、これが、ベースとなって、宮崎県の中山間地、過疎地が本当に一歩でも二歩でも、前進できるような形で発展していったらと思います。

　また、事務局の方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました。皆様方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

○河野委員長　以上で委員会を閉会いたします。委員の皆様におかれましては、一年間、大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。

　　　午前10時９分閉会